No.8　働く人の約３人に１人ががんと診断される時代に
がん検診を知り、正しく受診しよう

今、日本人の死因第１位は「がん」です。毎年 100 万人近くが新しくがんと診断されており、働く人の場合は約３人に１人ががんと診断されています。2019 年は約 38 万人（男性 22 万人、女性 16 万人）ががんで亡くなっています。身近な病気になっているがんですが、医療技術の進歩によって、一部のがんでは早期発見・早期治療が可能になってきました。そこで、今回はがん検診について基本的なことをお話したいと思います。

目次

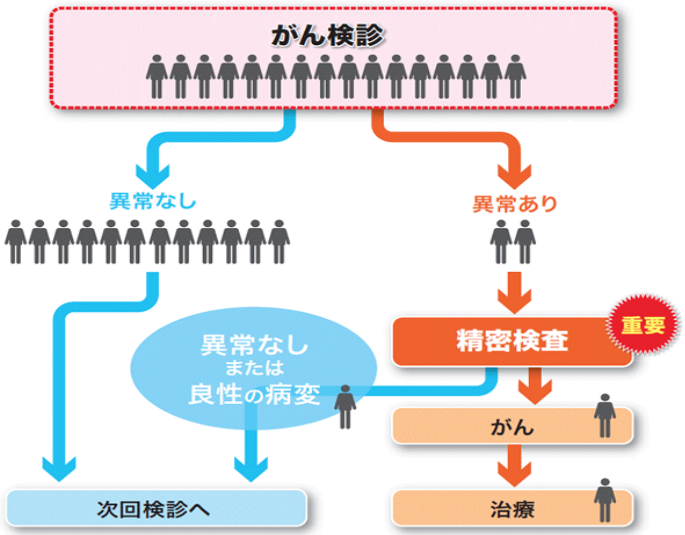
１．がん検診とは
２．がん検診の流れ
３．がん検診の種類
４．がん検診のデメリット
５．まとめ

１．がん検診とは

自覚症状が出る前にがんを見つけることができる検診のことです。がん検診は死亡率を減少させる確実な方法です。検診によって早くがんが見つかれば、生存率に差が出るということも分かっています。

２．がん検診の流れ

がん検診は、一見健康な人に対し、「がんがありそう（異常あり）」「がんがなさそう（異常なし）」を判定し、『ありそう』と判断された人を精密検査で診断し、救命できるがんを発見することが目的です。



※厚生労働省「がん対策推進企業アクション」より

がん検診は、「がんがある」「がんがない」ということが判明するまでのすべての過程を指します。
がん検診を受けて「異常がない」場合は、定期的な検診受診を継続しましょう。「要精密検査」と判断された場合には、 精密検査を受けて、『異常なし、または良性の病変』であったときには次回の定期検診へ、“がん”と診断された場合は、治療に進むことがん検診の流れです。 **検診を受けて終わりではなく、精密検査を受けることも重要です。**

3．がん検診の種類

国が推奨するがん検診は 5 種類です 。

がんの種類	検診内容		
	対象者	受診間隔	主な検査項目
肺がん	40 歳以上	年 1 回	問診、胸部エックス線検査、喀痰細胞診
胃がん	50 歳以上 ※当分の間、胃部 X 線検査については 40 歳以上に対し実施可	2 年に 1 回 ※当分の間、胃部 X 線検査については年 1 回実施可	問診に加え、胃部 X 線検査又は胃内視鏡検査のいずれか
大腸がん	40 歳以上	年 1 回	問診、便潜血検査（※） ※便の中に混じる血液を検査
子宮頸がん	20 歳以上 （女性）	2 年に 1 回	問診、視診、細胞診
乳がん	40 歳以上 （女性）	2 年に 1 回	問診、マンモグラフィ

※参考資料：厚生労働省　がん対策情報　（https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000059490.html）

4．がん検診のデメリット

がん検診による最大のメリットは、早期発見・早期治療によりがんの死亡リスクが減少するということです。しかし、がん検診を受診する人全ての人に恩恵が行き渡るとは限りません。がん検診にはメリットだけでなく、重大なデメリットもあります。がん検診は、対象となる臓器や検査の種類により、デメリットの種類は異なりますが、どのようながん検診にも共通し、遭遇する可能性のあるものは「偽陰性」、「偽陽性」と「過剰診断」です。

「偽陰性」　：がんがあるにもかかわらず、正しく診断されないこと

がん検診に限らず、検査の精度は 100%ではありません。早期の段階であれば、初回の検診でがんが診断できなかった場合でも、適切な間隔で検診を受け続けることにより、がんによる死亡を回避する可能性は高くなります。このため、がん検診は単発の受診ではなく、適切な間隔で受け続けることが必要です。

「偽陽性」 ：がんがないにもかかわらず、がんがあるかもしれないと診断されること

具体的には、最初に受けたがん検診の結果、精密検査が必要と判断されることです。精密検査が必要となるのは、がんの疑いを除外するためと、がんであることを確かめるための 2 つの意味があります。

「過剰診断」：本来そのがんが進展して死亡に至るという経路を取らない、生命予後に関係のないものが発見される場合

こうした「がん」は消えてしまったり、そのままの状況に留まったりするため、生命を脅かすことはありません。また、精度が高いとされる検査で発見される前がん病変も、すべてががんに進展するわけではなく、むしろがんになるのはほんの数%にすぎません。

しかし、実際にがん検診を受けて「がん」として見つかったものについては、多くの場合は通常のがんと同様の診断検査や治療が行われます。診断検査や治療には、経済的だけでなく、身体的・心理的にも大きな負担を伴います。場合によっては、治療による合併症のために、その後の生活に支障をきたすこともあります。

5．まとめ

がんの早期発見・早期治療ができれば、それだけ完治の可能性が高くなるだけでなく、治療に要する費用や時間、心の負担も軽くなるため、がん検診の定期的な受診が重要です。しかし、がん検診にはデメリットもありますので、デメリットも理解したうえで自身のリスクに応じて正しく受診しましょう。

また、東電健保では人間ドックなどの健診費用の補助をしています。健保契約健診機関で受診すると、通常であれば 4~5 万円する人間ドックが、1 万円で受診することができます。人間ドックでは、国が推奨するがん検診の項目も受診することができます。

さらに、2022 年度より**「節目人間ドック」**を新設しました！35 歳～70 歳までの 5 歳ごとの節目年齢に該当した方が人間ドックを利用された場合に、マイページより申請すると自己負担額 10,000 円がキャッシュバックせれ、**実質無料で受診できます**。ぜひご活用ください。

※人間ドックや節目人間ドックの詳細については、東電健保ホームページをご覧ください↓

https://www.todenkenpo.jp/checkup/health/dock/

※健保契約健診機関一覧はこちらから↓

https://www.todenkenpo.jp/checkup/health/dock/hospitals_list/

＜参考文献＞

・厚生労働省「がん対策推進企業アクション」

・厚生労働省「がん患者の就労や就労支援に関する現状」

・がん検診ハンドブック～受診率向上をめざして～（平成 21 年度厚生労働省がん検診受診向上指導事業がん検診受診向上アドバイザリーパネル委員会）